(その三)

工場又は事業場の名称	ＪＮＣ石油化学株式会社 市原製造所

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策１	対策２	対策３	対策４	対策５	対策６	対策７	対策８	対策９	対策10
5 2	5 3	5 4							

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	ＪＮＣ石油化学株式会社　市原製造所

⑶ 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
(A)	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	三井･ﾀﾞｳ ﾎﾟﾘｹﾐｶﾙ株式会社 千葉工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
5 6									

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	三井･ﾀﾞｳﾎﾟﾘｹﾐｶﾙ株式会社 千葉工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	デンカ株式会社 千葉工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策１	対策２	対策３	対策４	対策５	対策６	対策７	対策８	対策９	対策10
１９	３１	３９	４１	４９	５１	５２	５３	５６	

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

【対策１】について

・塩ビテープの粘着剤の溶剤をトルエンから水系エマルジョンへ変更しました。

【対策３】について

・スチレン系樹脂（ＡＳ樹脂、ＭＢＳ樹脂等）の製造プロセスを、バッチ重合法からＶＯＣ排出量の少ない連続重合法へ転換しました。

【対策５】について

・メタクリル酸メチルおよびアクリロニトリルの屋外タンクに、蒸気の船戻し配管を設置し、船受入れ時の大気放出を削減しました。

(その四)

工場又は事業場の名称	デンカ株式会社 千葉工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	日立化成株式会社 五井事業所（五井）

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 1	5 1	5 4	5 6	9 1					

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	日立化成株式会社 五井事業所（五井）

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	ＡＧＣ株式会社 千葉工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策１	対策２	対策３	対策４	対策５	対策６	対策７	対策８	対策９	対策10
１　１	１　３	３　１	３　２	５　３	５　４				

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	ＡＧＣ株式会社 千葉工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
Ⓐ	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	ＥＮＥＯＳ株式会社 千葉製油所

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策１	対策２	対策３	対策４	対策５	対策６	対策７	対策８	対策９	対策10
5 2									

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策1 について

・充てん出荷施設に設置稼動している炭化水素回収装置（ＶＲＳ）の吸収溶液について、計画通り出荷作業台数に対する適正循環量調整を徹底し回収率を高めました。

・ＶＲＳの回収率目標８５％以上に対して、令和元年度実績は適正な運転調整を行なった結果９４％を維持しました。

（その四）

工場又は事業場の名称	ＥＮＥＯＳ株式会社 千葉製油所

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
Ⓐ	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる。（一部に課題がある。）	削減目標を概ね達成できた。（一部に課題がある。）	計画年度の目標を概ね達成できた。（一部に課題がある。）
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

・炭化水素回収装置（ＶＲＳ）の吸収溶液循環量の適正管理により目標年度の達成値を順調に維持しています。

・石油精製装置の計画外停止が発生しましたが、石油製品の出荷設備（炭化水素回収装置）の運転調整を適切に行いました。また、社会情勢により原油処理量が計画量より下がったことも排出量が低くなった要因となりました。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	矢澤光学塗装株式会社 千葉工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 1	2 2	2 3	3 4	5 2	9 1	3 3			

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	矢澤光学塗装株式会社 千葉工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

削減率を改善するように努めていましたが、基準年度よりも
使用量、排出量共に削減出来ませんでした。

昨年からの受注量はそれほど変化は有りませんでしたが、
基準年に比べ揮発性有機化合物を多く含む塗料や溶剤の生産量が多くなったことが
この様な結果になったと考えられます。

コロナウイルスの影響で生産量が減るので、使用量、排出量共に減少すると
考えられますが、昨年同様に塗料や溶剤の蓋の開放時間の短縮削減や
効率改善による揮発性有機化合物を多く含む塗料、溶剤の使用量削減、
不良率削減により塗装時間短縮に努め、VOC排出量の削減を目指します。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	日本リファイン株式会社 千葉工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 1	2 9	3 2	5 2	9 1					

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策２について

屋外貯蔵タンクの品種変更の為の洗浄乾燥の際に、親水性の有機溶剤を水洗により回収した後、乾燥する手順を遵守する。

(その四)

工場又は事業場の名称	日本リファイン株式会社 千葉工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２９年度以前	平成３０年度	令和元年度以降
Ⓐ	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

作業手順の変更による削減は、計画通りに行い、その効果も期待通りの結果であり今後も継続していく。

高沸点溶剤の取扱いの割合を増やすことで、削減できると計画しており、実績でも使用量に計画との違いがなく高沸点溶剤が増加し、低沸点溶剤が減少したため、排出量の削減になった。

今後も高沸点溶剤の割合を増やし、一つの生産を大口化することを目標としていく。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	三菱製鋼株式会社 千葉製作所

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策１	対策２	対策３	対策４	対策５	対策６	対策７	対策８	対策９	対策10
２　２	３　４	５　１	５　５	９　１	９　９				

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策６について

・塗装膜厚管理を管理値の下限に近づく様に改善する。

・塗装仕様を客先と打合せて変更する（重ね塗り回数の削減）。

（その四）

工場又は事業場の名称	三菱製鋼株式会社 千葉製作所

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
Ⓐ	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	ティー・エム・ターミナル㈱ 市原事業所

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
５　１									

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	ティー・エム・ターミナル㈱ 市原事業所

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
Ⓒ	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

＜課題と対策＞

・TA-303タンク（1,000KL以上）については、炭化水素回収装置に接続されており、排出ガスの99%を回収しているが、削減率については基準年度（平成12年）と比較した場合、顧客の要望によりVOC対象品目の取扱いが大幅に増えており、基準年度の排出量を達成することは、困難となっている。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。